

旧城下町の歴史的敷地におけるコモンスペースの構成  
栃木県下都賀郡壬生町を事例として

旧城下町 コモンスペース 歴史的建造物  
敷地構成

正会員 ○山口 陸生\*  
同 安森 亮雄\*\*  
同 大嶽 陽徳\*\*\*  
同 小林 基澄\*\*\*\*

1. 序 栃木県下都賀郡壬生町は日光と江戸をつなぐ日光道中壬生通り(図1)の重要な宿場町で壬生城の城下町であったため、寺社地や町屋などが点在している。こうした歴史的な敷地は、現在まで町の人々に共有されるコモンスペース<sup>注1)</sup>の一部として機能してきたと考えられ、また、かつて寺社地であった壬生町庁舎では、移転に伴い跡地をコモンスペースとして活用する方策が求められている。こうした歴史的な敷地のコモンスペースとしての側面を検討するため、本研究では、外部空間と建物からその構成を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象と分析方法 壬生町は徳川家の重臣の鳥居家が城主をつとめた壬生城の城下町であり、多くの寺社地や文化財がみられる。町内に残る寺社地12件<sup>注2)</sup>と町屋3件<sup>注3)</sup>を対象とし(図2)、寺社地は、現存するものと、廃寺したが名称を変え縮小したものに区分した。これら15件の対象敷地についてゼンリン住宅地図をもとに現地調査を行い、外部コモンスペースと建物のコモン用途や配置を検討し、重ね合わせた構成を検討をした(図3)。

3. 外部コモンスペースの構成

3.1 外部コモンスペースの形状と境界要素 まず、外部コモンスペースの形状と境界要素について検討する。

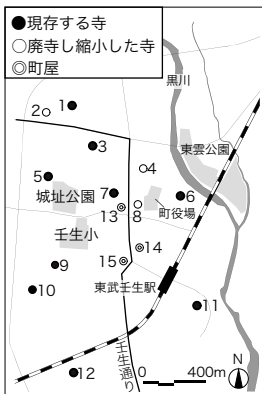
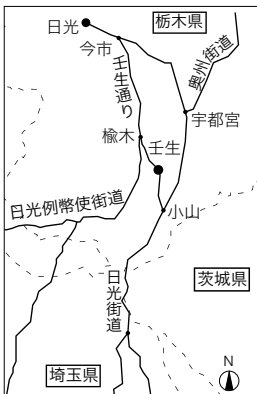
外部コモンスペースを、舗装された道である道型、舗装されず動線が定められていない広場型、両方の性質を併せ持つ道・広場型として整理した(表1)。また、外部コモンスペースの境界要素は、植栽や塀で道路や駐車場を区分するものが多くみられた(表2)。

3.2 敷地へのアプローチ 次に、外部コモンスペースへのアプローチを検討する。敷地に前面街路から直接敷地に入るものと、引き込み道路を介して間接的に入るのが比較的多く(表3)、前面街路は大幅員が多かった(表4)。また、駐車場をもつ敷地も多くみられた(表5)。

3.3 外部コモンスペースのパタン 前節までの形状とアプローチから外部コモンスペースの構成を整理した(表6)。引き込み道路から間接的にアプローチする道・広場型には現存する寺(●.4/4)が該当し、前面道路から直接アプローチするものには廃寺し縮小した寺(○.2/4)が多く、道型では町屋(◎.2/3)が特徴的にみられた。

4. 建物のコモン用途と配置の構成

4.1 コモン用途 対象敷地の寺社地や町屋には、保育園や公民館のような用途を含むものがあり(表7)、これらは建物内部にコモンスペースをもつと捉えることができる(コモン用途)。また、主屋以外に事務所や石蔵、門



No	名称	建築年代	状態
1	壬生寺	1686	●
2	八幡神社	1582	○
3	常楽寺	1489	●
4	薬師堂	不明	○
5	精忠神社	1849	●
6	雄琴神社	928	●
7	興光寺	1400	●
8	雷電宮	1602	○
9	豊栖院	1522	●
10	興生寺	1470	●
11	繩解地藏尊	不明	●
12	愛宕神社	不明	●
13	石崎家	-1890	◎
14	松本家	明治期	◎
15	小田垣酒造	明治末期	◎

表2 境界要素 (15.重複有)

植栽	塀	段差	無し
6	4	2	6

表4 接道の幅員 (15)

大幅員(W)	中幅員(M)	小幅員(N)
8	3	4

表3 アプローチの方法 (15)

直接	間接
6	7

表5 駐車場の有無 (15)

有り	無し
9	6

表6 外部コモンスペースのパタン (15)

	道型 (4)	広場型 (6)	道+広場型 (5)
間接アプローチ (7)	1 ●(1)	2 ●(1)○(1)	4 ●(4)
直接アプローチ (8)	3 ●(1)◎(2)	4 ●(1)◎(2)◎(1)	1 ●(1)

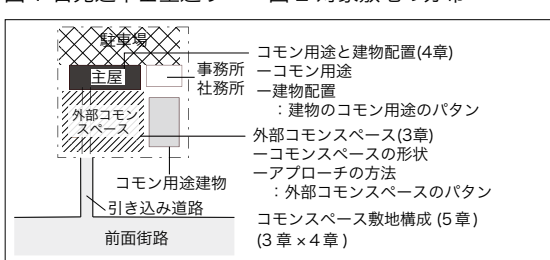


表1 外部コモンスペースの形状 (15)

形状	数
道型	(4)
広場型	(6)
道+広場型	(5)

表7 コモン用途の種類 (7)

公民館	商店	医院	幼稚園	保育園
3	2	1	1	1

表8 他の建物や門等 (22)

事務所	社務所	石蔵	門(長屋門)	鳥居
5	1	2	9	5

などがみられ(表8)、多くの敷地に門が設けられていた。長屋門の内部が商店として活用され、門とコモン用途の機能が複合する特殊な例もみられた。

4.2 建物配置 敷地内の建物の配置について検討する(表9)。建物配置は、外部コンモンスペースと隣接するものと、外部コンモンスペースをL字や囲みで包含するものに分けられた。このうち隣接が多く、これには複数棟が並列して配置されるものもみられた。

4.3 建物のコモン用途のパターン 前節までのコモン用途の有無と建物配置から、建物のコモン用途のパターンを導いた(表10)。コモン用途がある敷地は複数の建物で包含する配置が多く、コモン用途が無い敷地は隣接する配置が多くみられた。また、コモン用途が無い敷地の隣接する配置の現存する寺(●.5/6)とコモン用途がある包含する配置の現存する寺(●.4/5)の数が多く該当した。

5. 歴史的敷地におけるコンモンスペースの構成 前章までの外部コンモンスペースと建物のコモン用途のパターンを2軸として整理し、特徴が共通する5つの類型が得られた(表11)。まず、類型Iは、コモン用途を持たない建物が、広場型の外部コンモンスペースと隣接し、前面道路から直接アプローチするもの(外部広場型)である。敷地境界に植栽や段差があり、敷地の独立性が高いものもみられる。同様に、コモン用途が付属していない類型IIは、道・広場型の外部コンモンスペースと隣接し、引き込み道路を介し、敷地内の道と連続するもの(外部道連続・広場型)である。全体の中で該当数が多く、事務所や社務所の機能を持つ寺社地が多くみられた。これらに対して、建物

のコモン用途を併せ持つものとして、類型IIIは医院や店舗などのコモン用途が付属する町屋などの建物が、道型の外部コンモンスペースを包含し、直接アプローチするもの(内部コモン道囲み型)である。また、類型IV-1は、公民館や商店がコモン用途として付属する建物が、広場型の外部コンモンスペースと隣接し、直接アプローチするもの(内外コモン広場・隣接型)、類型IV-2は、公民館や幼稚園のコモン用途が付属する寺社地において、広場型の外部コンモンスペースに間接的にアプローチするもの(内外コモン広場・間接型)で外部と建物内部の双方のコンモンスペースが利用されているものである。

6. 結 本研究では壬生町の歴史的敷地を対象として、コンモンスペースの構成を検討した。その結果、建物のコモン用途が付属せず、外部コンモンスペースを広くとる外部広場型と外部道連続・広場型、前面街路に対して建物のコモン用途が表出する内部コモン道囲み型、コンモンスペースが外部空間と内部空間の双方にある内外コモン広場・隣接型と内外コモン広場・間接型の4つの類型を見出すことができた。これらの類型から寺社の境内などの歴史的な敷地におけるコンモンスペースは、外部空間を主体とするものと、公民館や商店が併設された内部空間と外部空間の双方の関わりで形成されているものという2つの傾向があることを明らかにした。

注

- 1) コンモンスペースとは、特定者が共同管理して利用する共有空間。廊下、階段、住宅地における共同利用庭園など(建築学用語辞典/岩波書店)とされており本研究では、地区の住民が利用する共有空間としている。
- 2) 「現代図に複合された壬生城と城下町(壬生城郭・城下町解説書/壬生町立歴史民族資料館)」に記載された21の寺社地より現在も残る12を抜粋した。
- 3) 石崎家(No.13)は町指定有形文化財、松本家(No.14)は国登録有形文化財に登録されている。

表9 建物配置と棟数

隣接	包含	
	L字	囲み
1棟 2 3 4 3 3 3 0	1棟 2 3 4 0 2 1 1	1棟 2 3 4 0 0 1 1
9	4	2

注) 棟数は、長屋門以外の門を除いた

表10 建物のコモン用途のパターン(15)

建物配置	隣接	包含
主屋	(9)	事務所・社務所
無	6 ●(5)○(1)	1 ●(1)
有	3 ○(2)○(1)	5 ●(4)○(1)

(15) 表11 歴史的敷地のコンモンスペースの構成

2章	外部コンモンスペースのパターン					
	道型		広場型		道+広場型	
3章	直接アプローチ	間接アプローチ	直接アプローチ	間接アプローチ	直接アプローチ	間接アプローチ
コモン用途無し	<b>凡例</b> 駐車場 建物配置 No.3 (●無.N.駐社.門.L.2) 状態 接道 建物棟数 (門を除く) 境界要素 他建物 構築物 記号は図2, 表2, 4, 5, 8, 9に準ずる		<b>I</b> No.8 (○無.N.生.鳥.隣.1) No.12 (●段.植.M.無.鳥.隣.1)		<b>II</b> No.5 (●橋.W.無.門.鳥.隣.1) No.6 (●橋.W.駐社.門.鳥.隣.1) No.9 (●原.N.駐車.隣.3) No.10 (●橋.段.W.駐社.門.隣.1)	
	<b>外部広場型</b> No.8 雷電宮		<b>外部道連続・広場型</b> No.10 興生寺			
コモン用途有り	<b>内部コモン道囲み型</b> No.13 石崎家		<b>IV-1</b> No.4—公民館 (○無.N.無.隣.2) No.15—商店 (○橋.W.駐石.門.隣.3)		<b>IV-2</b> No.2—公民館 (○無.W.無.鳥.隣.2)	
	<b>内外コモン広場・隣接型</b> No.4 八幡神社		<b>内外コモン広場・間接型</b> No.7—幼稚園 (●無.W.無.門.隣.4)		No.1—保育園 (●植.M.駐社.門.L.4)	

\* 宇都宮大学大学院地域創生科学研究科

\*\* 千葉大学大学院工学研究院 教授・博士(工学)

\*\*\* 宇都宮大学 助教・博士(工学)

\*\*\*\* 宇都宮大学産学イノベーション支援センター 研究員・博士(工学)

\*Graduate School, Utsunomiya Univ.

\*\*Prof., Faculty of Engineering, Chiba Univ., Dr.Eng.

\*\*\* Assist.Prof., School of Regional Design, Utsunomiya Univ., Dr.Eng

\*\*\*\* Postdoc Researcher, Utsunomiya Univ., Dr.Eng.